



須坂市立小山小学校だより

栃の子だより

平成 27 年 6 月 12 日

No.4

文責：寺島 寿一

あいさつ いのち うんどう・うたごえ えがお おもいやり

土曜参観・引き渡し訓練・PTA 親善ソフトバレーボール大会 ありがとうございました



【全校防災学習】



【引き渡し訓練】



【PTA 親善ソフトバレー】

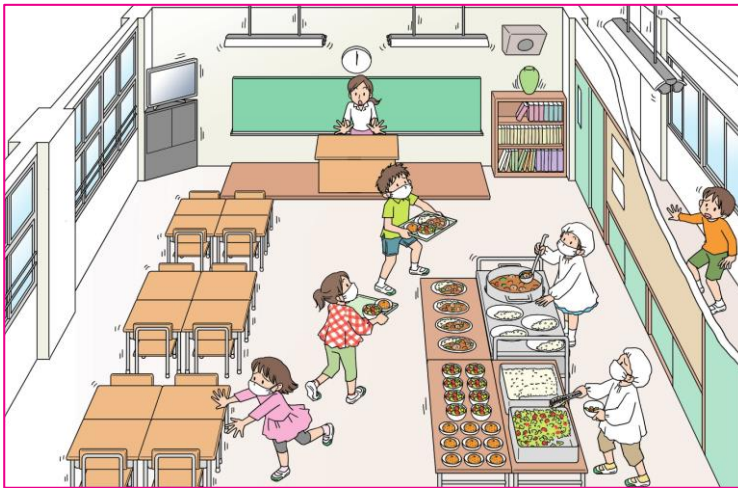
6月6日(土)の土曜参観日には、1時間目から大勢の保護者の方に新しい学年で2か月たった子どもたちの成長の姿を見ていただきました。

そして、大規模地震等の発生に際して、安全確実に子どもたちを保護者へ引き渡しができるよう引き渡し訓練を行いました。子どもたちには、「地震の被害やその危険性」「地震発生や緊急地震速報がなった時の自分の身の守り方」「保護者引き渡しまでの手順」等、青少年赤十字

防災プログラムのDVDを視聴しながら全校防災学習を行いました。また、保護者のみなさんには、「大地震などの緊急災害時における基本対応」や、この日の引き渡し訓練の流れについて説明を行い、グラウンドでの引き渡し訓練となりました。

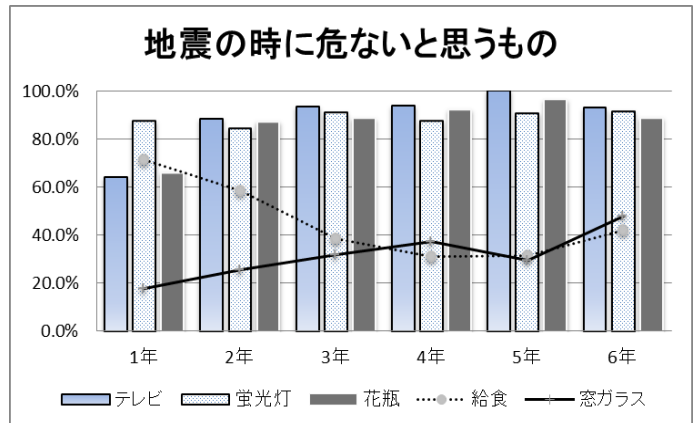
一昨年度はグラウンド、昨年度は体育館…と引き渡し場所を変えながら、どんな状況でもスムーズな引き渡しができるよう見直しと改善をしていきたいと思います。

午後は、PTA ソフトバレーボール大会が行われ、「日頃の運動不足の解消」「保護者同士の親睦」「小山小学校PTA 活動の活性化」等が図れました。



学校生活の中で、子どもたちが地震発生時に危ないと思うものを、上の絵を見て○をつけるアンケートをとって見たところ、次のような結果になりました。

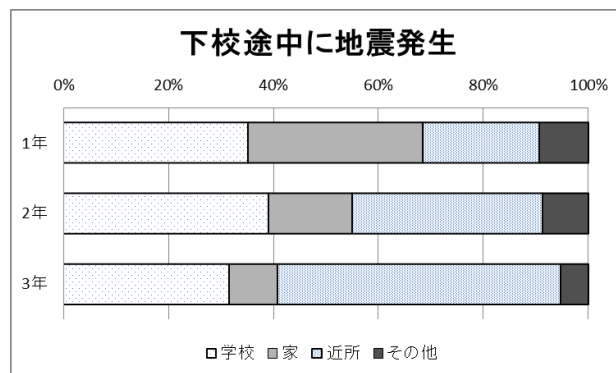
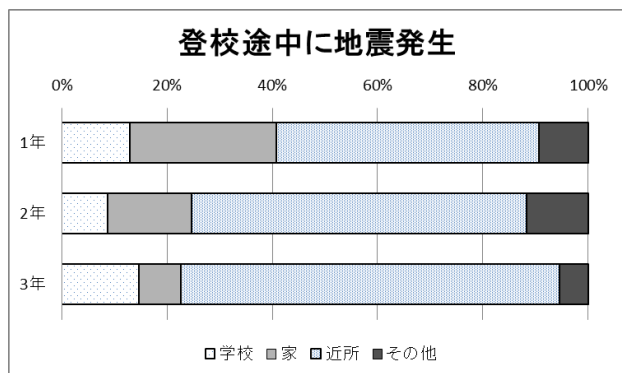
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
テレビ	64.3%	88.6%	93.6%	93.8%	100.0%	93.0%	89.3%
蛍光灯	87.5%	84.3%	91.0%	87.5%	90.7%	91.5%	88.8%
花瓶	66.1%	87.1%	88.5%	92.2%	96.3%	88.7%	86.8%
棚	41.1%	62.9%	76.9%	79.7%	75.9%	64.8%	67.4%
テレビ台	51.8%	51.4%	52.6%	51.6%	59.3%	46.5%	51.9%
給食	71.4%	58.6%	38.5%	31.3%	31.5%	42.3%	45.3%
窓ガラス	17.9%	25.7%	32.1%	37.5%	29.6%	47.9%	32.3%
時計	21.4%	22.9%	35.9%	32.8%	29.6%	46.5%	32.1%
机	28.6%	10.0%	16.7%	0.0%	11.1%	12.7%	13.0%
スピーカー	1.8%	1.4%	7.7%	4.7%	3.7%	9.9%	5.1%



子どもたちは、地震によって「高い位置にあるものが落ちてくる」「不安定なものが倒れてくる」といった認識は十分できているものの、「給食の配膳物が動いてくる」「窓枠が外れる、窓ガラスが割れる」といった「動いてくるもの」や「窓ガラスの危険性」については、十分でないようです。

低学年においては、食缶や牛乳など「熱い・重い」という経験から配膳中の人や給食を運んでいる人に○印をつける子どもが多かったです。窓ガラスの危険性については、学年が上がるにつれ気づけていますが、高学年においても50%に満たない状態です。

低学年(1年56名、2年70名、3年78名)に、「学校へ来る途中、学校と家の中間地点で大きな地震が起きた時」と「学校から家に帰る途中、学校の近くで大きな地震が起きた時」に、どうするか選択式(学校に行く、家に帰る、近所の家に助けを求め、その他)で聞いたところ、以下のような結果でした。

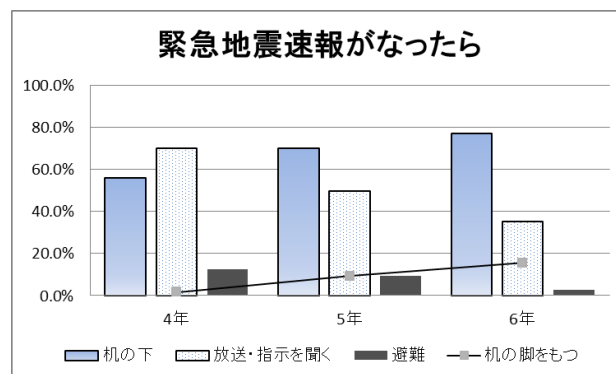
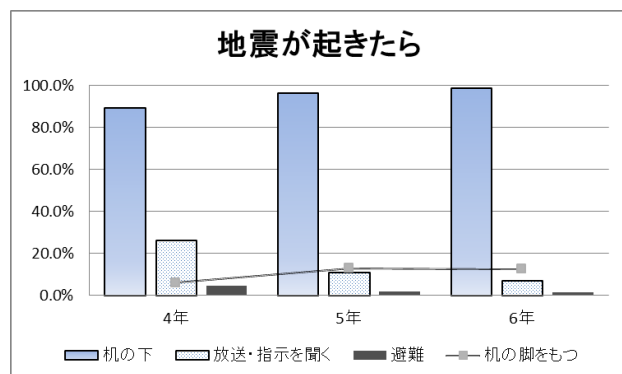


地震が発生したのが「登校中か、下校中か」ということよりも、地震が発生した場所が「家の近く、中間点、学校の近く」により回答が影響されると思われます。多くの子どもたちが「中間点なら近所の家」と判断したことは、妥当と考えていいでしょう。

一方、下校途中の学校近くの地震に対して、30~40%の子どもたちは「学校へ戻る」としていますが、1年生は32%の子どもたちが「家へ帰る」としている点は気がかりです。

高学年(4年64名、5年54名、6年71名)には、「教室にいる時に地震が起きたら、どうしますか?」「教室にいる時に緊急地震速報がなったら、どうしますか?」と質問したところ、以下のような結果でした。

(記述式で、複数の内容を記述している児童は、それぞれの項目にカウント)



地震が起きた時には、各学年90%の子どもたちが「机の下に潜り込む」を選択し、日頃の避難訓練の成果であり、とるべき行動について理解できています。しかしながら、「机の下で、机の脚をつかむ」といった、より安全な対応が記述できた児童は189名中の20名10.6%に過ぎませんでした。

また、緊急地震速報がなった時には、「机の下に潜り込む」他に、「放送や先生の指示を聞く」という記述が増えてきています。緊急地震速報がなった時点では、まだ大きな揺れは来ていないわけですが、その揺れの対応として「机の下に潜り込む」ことが自ら判断し、自ら身を守る行動であると言えます。一方、「放送や先生の指示を聞く」ことで、正確な情報や次の行動についての的確な指示を得ることができるわけですが、教室にいる場合については、やはり「机の下に潜り込む」ことが一番であることを子どもたちに考えさせたいです。

ぜひご家庭でも、いろんな場面を想定した対応・対処の仕方について、子どもたちと話し合いを行い、家庭での防災教育・安全教育を進めていただくとありがたいです。